

八工探検隊

建築愛好会

↑愛好会時代の看板

プリンタ台とパソコン収納棚



職員室の家具の隙間ぴったりの寸法に作った。パソコン収納棚内部は、パソコンを立てて収納できる間仕切りも。収納中に充電できるよう、電源もついた優れたものだ。



～校舎中に点在する力作たち～

今回目をつけたのは建築同好会の作品たち。顧問佐野先生と1年生の師橋和弥くん、浦谷海成くん、岡田明日翔くん取材した。作品は先生方から要望を受けたり、部活動や文化祭模擬店などの細かいニーズに合わせてフルオーダーでいちから製作する。グループごとにまずデザインを設計し、加工・組み立てをする。代表的なものをいくつか紹介しよう。

軸回し式の書類入れ

あけると



今回の探検でとても印象的だった作品。五年前に設置した「軸回し式の書類入れ」だ。「軸回し」とは、扉を開いた状態でスライドさせて、扉をサイドや上部に格納できる建具のことをいう。仏間に設ける襖戸などを想像していただけるとわかりやすい。構造的にも難しく、とても高校生が作ったようには見えない力作だ。



1年生が作った背もたれ付きの椅子



文化祭で活躍するリクライミングチェア

大橋先生 ニューヨークに住む

数学の大橋美穂先生は、2016年7月から2018年3月までの1年半、アメリカのコネチカット州に住んでおられた。体験談をお届けしよう。

異文化にドキドキ 「永住してもいい」

ご主人がニューヨークの日本人学校(小学校)に勤務されることになり、小学6年生のお子さんとともに移住された大橋先生。治安があまり良くないのと、アメリカという国が子どもは絶対に守るというお国柄のため、小中学生は自転車や徒歩での通学は禁止。友人宅、買い物、映画館など、どこへ行くにも親の同伴が原則だ。そのため大橋先生の日は、弁当作り、お子さんのスクールバス停までの送迎、空いた時間にボランティア、そしてジム通いなどをしていくという。



←昨年3月マンハッタンリパティ島にて 自由の女神像と大橋先生

渡米当初は言葉の問題が不安だった。日常会話においては、多少文法が間違っているが、中高レベルの単語で通じたが、聞き取りに関しては早くたという。

てなかなか聞き取れず苦労したそう。また日本と違い、目上の方でも、物事ははっきりと言った文化だ。だからYes・Noは、はっきりと大きな声で、そして単語を並べてしゃべるといい。いざとなったら、スマホの翻訳機能に助けをもらおうこともできる。アメリカ人だけでなく、メキシコ人やロシア人など様々な国の友人もできたそう。

「物価は高く、マックセットが1000円ほどもある」のにも、びっくりだ。日本食の素材やお菓子は「値段は高いけど、なんでも手に入った」そう。



AEDのBOX



体育館入口に、むき出しで設置されていたAED。危険という事で生徒支援からの依頼でカバーボックスを取り付けた。

プリンタ用紙棚



プリンタ用紙の置き場が無かったため、上開きで収納できる棚を製作。仕切を上手に作り、プリンタを置くための頑丈さも兼ね備えている。

師橋くん達は、入門編として作るイスについて、「それぞれの意見を出し合い、みんなでものづくりをするのがとても楽しかった」と口を揃えた。顧問の佐野先生からは「最初は木材を斜めに切っていたが、徐々に工具の扱いも上手くなり、技術が上がってきた」とお褒めの言葉。

彼らの作品は、どれも力作で想いが込められており、見た目にも美しく、家具のように八工の至る所に馴染んで置かれていた。そんな作品がこれからも増えていくのが楽しみだ。(海)